

Gitの歴史と概要

みんな大好きLinux産みの親の話

背景：Linuxカーネル開発の課題

1990年代、Linuxカーネルは急速に成長し、多くの開発者が参加するオープンソースプロジェクトへと発展しました。

しかし、そのコード管理には課題がありました。

当時、Linuxカーネルの開発では **BitKeeper** という商用のバージョン管理システムが使用されていました。

- BitKeeperは分散型の仕組みを持ち、当時の他の中央集権型ツール（CVSやSubversion）よりも優れていた
- しかし、2005年にBitKeeperの無償提供が停止
- Linuxカーネルの開発者たちは、新たなバージョン管理システムを探す必要に迫られた



求められた条件

- 分散型であること（各開発者がリポジトリの完全なコピーを持つ）
- パフォーマンスが高いこと（大規模なソースコードでも高速に動作する）
- シンプルな設計であること（無駄な機能を排除し、コア部分を効率的に設計）
- オープンソースであること（誰もが自由に利用・改善できる）

Gitの誕生

5

こうして、わずか **2週間** で最初のGitが開発されました。



初期の課題と改良

- **Gitのコマンド体系の整理**（より直感的な操作が可能に）
- **GitHubの登場（2008年）**（分散型Gitリポジトリを簡単に共有・管理できるプラットフォーム）
- **ブランチ管理の改善**（開発のスピードと効率が向上）

- **Linuxカーネルの開発**は引き続きGitで管理されている
- **GitHub, GitLab, Bitbucket** などのプラットフォームが普及
- **オープンソースから商用プロジェクトまで** 幅広い用途で活用されている

項目	中央集権型 (例: Subversion, CVS)	分散型 (例: Git, Mercurial)
リポジトリ管理	1つのサーバーで集中管理	各開発者が完全なコピーを保持
オフライン作業	できない	可能
パフォーマンス	ネットワーク依存で遅くなることがある	ローカルで高速に動作
柔軟性	低い	高い
コラボレーション	制限が多い	分散的な開発が可能

Gitは単なるバージョン管理ツールではなく、
オープンソースの精神とコミュニティの力によって進化し続けるツールです。

Linus Torvaldsの決断から始まったこのプロジェクトは、
今や世界中の開発者にとって欠かせない存在となっています。